

## 第36回 観光戦略実行推進会議 議事要旨

1. 日時：令和2年1月15日（水）9：20－9：50

2. 場所：首相官邸4階大会議室

3. 出席者：

（政府側）

菅内閣官房長官、赤羽国土交通大臣、大塚内閣府副大臣、宮下内閣府副大臣、中野経済産業大臣政務官、杉田内閣官房副長官（事務）、和泉内閣総理大臣補佐官、古谷内閣官房副長官補（内政担当）、田端観光庁長官、濱野内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、高橋内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）兼観光庁次長、石田内閣府地域経済活性化支援機構担当室長、神田財務省大臣官房総括審議官、中岡文化庁次長、鎌田中小企業庁次長、清野日本政府観光局理事長

（有識者・敬称略）

田島健夫（雅叙苑観光有限会社代表取締役）、永田祐介（蘇山郷館主）、大田原博亮（株式会社地域経済活性化支援機構(REVIC)執行役員・マネージングディレクター）、菊池伸（株式会社日本政策投資銀行代表取締役副社長）、デービッド・アトキンソン（株式会社小西美術工芸社代表取締役社長）

4. 議事概要

○観光庁より、地域に外国人旅行者を呼び込むために～外国人受入による宿泊業の生産性向上～（資料1）を説明。主な内容は以下のとおり。

【田端観光庁長官】

- ・近年、ホテルの軒数と客室数はともに増加している一方、旅館の軒数と客室数はともに減少。国内における延べ宿泊者数については、この6年間で24%、約1億人泊増加。
- ・地方の外国人宿泊者数については、この6年間で4.5倍、3,848万人泊に増加。地方の中では、北海道、沖縄等、上位10道県で6割以上の2,352万人泊を占めており、それ以外の地域において、大きなポテンシャルがある。例えば、香川、岡山、佐賀、青森のように外国人延べ宿泊者数が大幅に増加している県もある。
- ・地方での宿泊業の設備投資は大都市圏の3分の1未満と少なく、客単価が大都市圏の7割の水準にとどまっている。
- ・地方の宿泊施設としては旅館の形態が多い。しかし、客単価が低いため、地方の旅館は経営状況が悪い事業者が多い。
- ・宿泊業に特有の課題として以下があげられる。
  - －老朽化した施設、従来型サービスが多く、個人客や外国人客のニーズに対応できていない。
  - －効率的な人材配置ができていない。
  - －経営手法が長年の勘や経験に依存している。

- ・地方の宿泊者数は伸びているが、多くの地域では外国人の宿泊者数はまだ少ないため拡大余地があり、投資による大きな効果も期待できる。一方、現状は、投資の停滞により、施設が老朽化しサービス改善もなされず、客単価が低い水準にとどまるという状況から抜け出せていない。
- ・この負のスパイラルを解消するためには、以下の取組が必要。
  - －各宿泊施設が生産性向上に向け、他の施設との連携・統合等を図ること
  - －意欲のある宿泊施設が金融機関の協力を得て積極的な投資を行い、個人客や外国人向けのサービスに転換すること
  - －宿泊を高付加価値化し、収益で更なる投資を行うという正のスパイラルを構築すること
- ・国としては、金融機関と連携して積極的な設備投資を促し、宿泊施設の高付加価値化・魅力の向上を図るとともに、多言語化、泊食分離等インバウンド受入能力の強化を支援していく。これにより、我が国における宿泊需要の平準化、単独の宿泊施設の再生にとどまらない地域全体の高付加価値化・魅力の向上が期待できる。
- ・宿泊施設の高付加価値化・魅力の向上を図る取組については、全国各地で進んでいる。

○田島健夫氏（資料２―１）、永田祐介氏（資料２―２）、大田原博亮氏（資料２―３）、菊池伸氏（資料２―４）より、地方部における宿泊施設の外国人対応の促進について、それぞれ資料に基づきプレゼン。

○意見交換において、有識者より以下のご発言あり。

【デービッド・アトキンソン氏】

- ・2030年の旅行消費額の目標達成に向けては、外国人一人当たりの宿泊部門における旅行支出を更に増加させる必要。これを実現するためには、宿泊部門に対する投資が必要不可欠。宿泊部門は、客単価の上昇を一番期待できる分野と考える。
- ・先日の観光戦略実行推進会議でも取り扱ったスノーリゾートと同様に、旅館・ホテル業界についても、国内観光客の減少から負のスパイラルに陥っているケースが見受けられる。宿泊施設が自力では立ち直れない場合、国の支援により再生できるような仕組みを検討することが重要。
- ・宿泊業・飲食業における生産性向上は、2030年までの観光戦略の実現に向けて最大の課題ではないかと思う。

○中野経済産業大臣政務官、大塚内閣府副大臣、赤羽国土交通大臣よりご発言あり。主な内容は以下のとおり。

【中野経済産業大臣政務官】

- ・経済産業省においては、インバウンド需要を拡大するべく、今後、外国人と連携した形での商材・サービスづくりを推進するとともに、商店街を始めとする商業・サービス業の集積地においてデジタル技術も活用したインバウンド対応の推進を図っていく予定。
- ・加えて、「ものづくり・商業・サービス補助金」や「IT導入補助金」等を通じて、宿泊事業者を含む中小企業の生産性向上を支援してまいりたい。

- ・今後も、観光庁や支援機関、業界団体等とも連携しながら、各種支援策についての周知・広報を行うことで、宿泊事業者の生産性向上をより一層促進してまいりたい。

#### 【大塚内閣府副大臣】

- ・旅館等の宿泊施設は温泉と併せて地方の貴重な観光資源であり、今回議論された宿泊施設や地域全体の高付加価値化の取組を各地に広げ、地方への誘客や消費拡大を推進することは地方創生において非常に重要。
- ・このため、内閣府としても地方創生推進交付金等を活用して各地の取組を支援している。例えば、城崎温泉地域では、観光地域づくり法人を中心に、地域が一体となって、欧米豪のFITをターゲットにしたマーケティングや、付加価値の高い旅館宿泊プログラムといった滞在時間拡大のためのコンテンツを開発する取組等を行うことにより、外国人延べ宿泊客数の増加が実現している。
- ・本日の有識者からのプレゼンの中で、マイクロバスの活用等、規制改革に絡む話もあったかと思うので、今後検討してまいりたい。
- ・観光による地方創生を実現していくため、関係省庁と連携しながら各地の取組が実を結ぶようしっかりと支援してまいりたい。

#### 【赤羽国土交通大臣】

- ・外国人旅行者の地方への来訪を促し、消費の活性化を実現するためには、地方の魅力的な観光資源を磨き上げるとともに、宿泊施設の魅力を高めていくことが重要な鍵となる。
- ・例えば、私の地元の城崎温泉では、関係する宿泊施設が従来のビジネスモデルを乗り越えて連携した結果、決して交通アクセスの利便性が高い場所とは言えないものの、6年間で約40倍もの外国人旅行者が訪れるようになった。これは、蘇山郷の永田様からもお話があったように、従来は各宿泊施設がお客様を「困り込む」形でしのぎを削っていたものを、むしろ積極的に宿泊施設から出てもらい、外湯巡り等の「まち歩き」をしてもらう仕掛けをしたことによって、城崎温泉全体の訪問者数を大きく増やすことに成功したものである。
- ・このように、宿泊施設が外国人のニーズを的確に捉え、受け身ではなく、攻めの姿勢で変革に向けた取組を進めていくことが重要であり、本日の有識者のお話を伺い、その思いを改めて強くした。
- ・国土交通省としては、引き続き、こうした宿泊施設の意欲的な取組を全力で支援してまいりたい。
- ・また、本会合でアトキンソン様にもご指摘をいただいているように、他の産業と比較しても低いと言われている宿泊施設の生産性向上を実現することにより、従業員の処遇の改善と接客サービスの改善に繋げていくことも重要。
- ・このような好循環を生み出すことができるよう、経済産業省等の関係機関とも連携して、金融支援を含めた必要な支援を進めてまいりたい。

○最後に菅内閣官房長官より以下ご発言あり。

#### 【菅内閣官房長官】

- ・去年の訪日外国人旅行者は、2.2%増の3,188万人となった。これまで、ビザ緩和等の大胆な改革を実行し、多言語化等の受入環境整備を進めて、この7

年間で4倍に拡大した。足元では、韓国を除けば10%増である。政策の効果は現れている。毎年4%拡大する世界の旅行需要を日本に一層取り込むためには、地方への誘客に取り組むことが必要。

- ・このうち宿泊は、旅行消費の3割を占めている。地方の外国人宿泊客は、この6年間で4.5倍に増加する一方、北海道、沖縄等の地方の上位10道県で6割以上を占めており、それ以外の地域での拡大余地はまだまだ大きいと思う。
- ・本日は、各地で、個人の外国人に照準をあてた質の高いサービスを提供している宿泊施設や、そうした取組を地域ぐるみで行っている例を伺った。地域経済活性化支援機構は全国5か所でスキーリゾートや温泉街の再生に取り組んでおり、政策投資銀行においても外国人向けに宿泊施設の整備に取り組んでいく。観光庁も、全国100程度の宿泊施設で多言語化等を支援することとしており、経産省、金融庁等とも連携して、政府一体となってこうした取組を進めていく。
- ・今年は、訪日外国人2020年4,000万人の目標年である。地域で努力している方々を国がしっかり支援することによって、目標を達成し、真の地方創生を実現していくので、関係閣僚においてはご協力をお願いしたい。

○赤羽国土交通大臣より閉会

- ・本日の第36回会合はここで閉会とする。なお、本日の議事については要旨を公開することを予定している。

以 上